

— 町長メッセージ — 町民の皆様へ

8月15日で、第二次世界大戦の終戦から80年目を迎えます。この節目にあたり、改めて戦争の記憶を振り返り平和の尊さについて考える機会としたいと思います。

終戦の年、私は湯浅国民小学校1年生で6歳でした。幼かったため記憶は断片的ですが、毎日防空頭巾をかぶって登校し、登校しても空襲警報が響けば帰宅せねばならず、急いで自宅の庭に掘った防空壕へ避難したことを覚えています。頭上を飛び交うB29、誤って落とされた焼夷弾で民家が燃える光景は、幼い私に恐怖を与えました。戦場に出征していた父の代わりに、母は幼い兄弟を抱えながら食糧を確保し、私たちを懸命に守ってくれていました。

終戦間近となると空襲警報が頻繁に発令されたため、学校では勉強する時間がほとんどありませんでした。また、運動場は食糧不足への対策としてサツマイモ畑になり、友達と体を動かして遊ぶこともできませんでした。戦後も先生が不足し、小学生らし

い体験をほとんどすることが叶わなかった時代です。戦争が家庭や学校生活をいかに壊してしまうかを身をもって知っている世代として、平和への願いは人一倍強く抱いております。

この80年という節目の年に、戦争の過ちを二度と繰り返さないと心に誓うとともに、次世代へ平和の尊さをしっかりと受け継ぐことが私たち行政の重要な責務だと強く感じております。平和で安心して暮らせる町を築いていくためには、町民の皆さん一人ひとりが平和について考え、思いを共有することが欠かせません。どうぞ、この機会に過去を振り返り、平和について今一度考える時間をお持ちください。

町民の皆さんとともにより良い未来を築くべく、一層努力してまいります。

(令和7年7月24日)

湯浅町長 上山 章善



戦後80年 未来へつなぐ平和への誓い

戦後80年を経て、戦争を経験した人は年々少なくなっています。当時の体験を語り継ぐことがますます難しくなっている中、改めて湯浅町がこれまで行ってきた平和への取り組みを紹介します。

●昭和32年……「世界連邦平和都市」を宣言

●昭和60年……「非核・平和の町」を宣言

●平成23年……「平和首長会議」へ加盟

平和首長会議は、核兵器廃絶、世界恒久平和の実現を目的として、昭和57年に設立されました。7月1日時点で、国内では1740都市が加盟しています。



役場庁舎前の石碑
世界連邦平和都市であることを伝える



平和行政について
こちらも
ご覧ください

現在の取り組み

●平和学習

各小学校では、読み聞かせや講演会の開催、作文の発表会を実施するなど、学年に応じた平和学習に取り組んでいます。

中学校では、社会科の授業を通じて平和学習に取り組む、平和の尊さを学ぶ機会としています。

●戦没者追悼式の開催

コロナ禍により実施を見送ってきましたが昨年から再開し、捧げられた尊い命に心から追悼の意を示しています。

●平和祈念の黙とう

8月6日（広島原爆の日）、9日（長崎原爆の日）、そして15日（終戦の日）には、それぞれサイレンを吹鳴し、黙とうを呼びかけています。平和への誓いを新たにする大切な機会として黙とうをお願いします。